

移動市長室



農事組合法人あしき

あしきの里で 地域に愛される農業を

通算108回目となる移動市長室を、3月25日(木)にJ A筑紫阿志岐出張所で開催し、農事組合法人あしきの組合員8人と懇談を行いました。

地域農業を守るために

法人あしきは、平成23年に市内で二番目に設立した農事組合法人で、下阿志岐地区を中心に18人の組合員で活動しています。農地を集約し、地域農業を発展させていくため、前身であるあしき機械利用組合から法人化をしました。

共同作業を行う中で、組合員同士の仲間意識が深まっていったという皆さん。その言葉のとおり、当口は笑いも起こる和やかな雰囲気の中での懇談となりました。



効率的な作業のために

法人あしきは、総務経理部、生産管理部、機械施設管理部の3部に分かれ、組合員がそれぞれ所属しています。生産管理部では肥料や種子の手配や、所有農地の管理などを、機械施設管理部では所有機械の点検や更新などを主に行っています。また、生産管理部が作成した栽培スケジュールに合わせて、機械施設管理部で使用する機械の準備を行うことで、「準備の遅れが作業全体の遅れに直結するので、部間の連携を大切にしていきます」と組合員は話します。ミスを減らし、効率的な作業ができるように各部で工夫を続けているそうです。

アスパラガスの成長を楽しみに

収益向上のため、アスパラガスの栽培を始めた法人あしき。天候に左右されない、軽くて運びやすいなどのメリットがあります。平成30年度に県の補助金を活用し、12棟のビニールハウスを導入しました。出荷を始めて丸一年が経過し、

安定した収穫に向け、さらに努力を重ねています。

懇談の後は、実際にアスパラガスのハウスへ視察に行き、藤田市長が収穫体験をしました。一晩で数センチも伸びるというアスパラガス。組合員の一人は「毎朝、アスパラがどれだけ伸びているかが楽しみなんです」と顔をほころばせます。法人あしきの心の込もった作物づくりの姿勢が伝わってきました。

あしきを誇りに

設立の際、「収益の問題より前に、地域農業を守りたいという思いがまずあった」という法人あしきは、ボランティアとして地域活動にも積極的に参加しています。農業機械を利用した宝満川周辺の草刈りや、水路の補修を行うなど、地域の景観保全に貢献しています。

代表理事の中原 善幸さんは、今後の展望として「後継者不足や高齢化などの課題もありますが、引き続き地域を誇りに思えるような作物を作り、品質・知名度の向上に努めていきたいです」と意欲を語りました。

参加者からの感想

- 市長と直接懇談をして、地域農業の課題を共有できたことは、大変有意義でありたいことだったと思います。
- 農業振興はすなわち地域振興だと思ってやっています。地域農業を守るという機械利用組合設立時からの思いを、現場を見ながらお伝えできてよかったです。



藤田市長の一言



いろいろなことを組合員の皆さんで協力しあって進めていらっしゃる姿を見せていただきました。探求心が非常に盛んで、創意工夫を凝らした取り組みをされていることが印象的でした。

農事組合法人あしきの皆さんの考えをお聞きして、農業の明るい展望、そういった期待が持てるように感じました。

皆さん方には、熱意を持って地域産業の一端を担っていただいております。行政としても、農業を大事な産業と捉え、皆さん方の努力に応えうる政策を進めていきたいと思えます。どうもありがとうございました。